

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	天王町立天王南中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	3	0	11	25
生徒数	104	126	113	0	343	

研究の概要

- 1 研究主題 進んで学び，自ら考え行動する生徒の育成
～授業の工夫改善による学習意欲の向上を目指して～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 2, 3年 数学・・・少人数指導について昨年度からの実績があるため。
- ・ 2, 3年 英語・・・生徒の理解の状況や学習の進捗に差が出やすい教科であるため。
- ・ 2, 3年 理科・・・少人数指導について昨年度からの実績があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

テーマ 研究主題に同じ

研究の見通し

研究の仮説

分かる授業を工夫改善していく「授業づくり」をしていけば，生徒の学習意欲の向上を図ることができるのではないか。

小仮説1

教師の話やプリントによる教材提供だけでなく，例えば講師を招いたり映像資料などを取り入れたりするなど，体験的な内容を伴ったものを提供していけば，生徒に課題意識をしっかりともちたせることができ，学習意欲を高めることができるのではないか。

小仮説2

一斉授業の単調さや教師主導型授業から脱却し，個別指導やグループ別指導，少人数指導やTTによる指導などで，一人一人にきめ細かな指導ができるようにすれば，生徒の自主的活動の伸長を図りながら学習意欲を高めることができるのではないか。

小仮説3

個々の生徒の長所を認める工夫を行うなど，一人一人の学びを大切にする評価方法を取り入れていけば，次時の学習への意欲付けはもちろん，指導方法の見直しを図ることで学習意欲を一層向上させることができるのではないか。

研究の内容・方法（平成15年度は特に を重点項目とした）

授業のねらいに迫るための教材提示の工夫

本時の学習課題や学習の流れなどが分かるように板書を工夫する。

生徒の興味・関心に応じた教材や，生活と関連付けた教材など，生徒の心を動かす教材の開発や工夫に努める。

個に応じた指導方法や指導形態の工夫

数学と英語において，2, 3学年のすべての時間で少人数によるコース別学習を行う。

理科において，2, 3学年のすべての時間でTTによる指導を行う。

一人一人の学習を促進する評価の工夫

自己評価カードや学習カードなどを活用し、学習への意欲付けや評価のための情報収集に努める。

単元や題材の評価規準の見直しを図るとともに、指導計画の中で、「C」の生徒が「B」に到達できるような指導の手立てを示す。

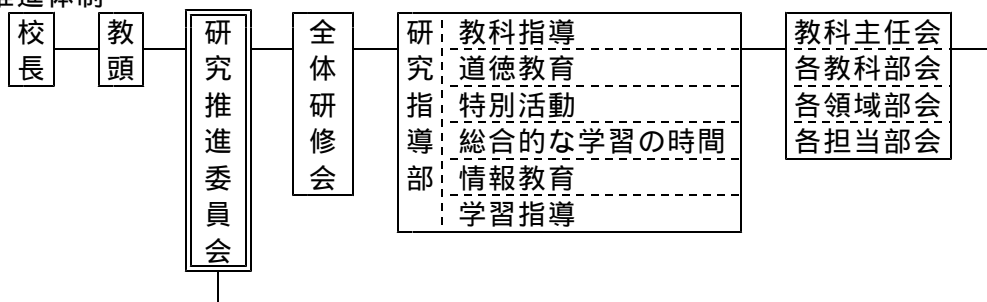
継続的な評価と、3年間を見通した評価のために、「生徒理解カード」に通知表の所見などの情報を3年間記録したり、通知表や指導要録の成績交換簿を3年間続けて使用できるものにする。

学期末の通知表に、生徒の自己評価の記録である「私の足跡」を添付する。十分に時間をかけて自己評価し記入させることで、自分の学習方法の見直しや成果の確認、次学期の学習への意欲付けを図る。

平成16年度

テーマ	15年度に同じ
研究の見通し	〃
研究の内容・方法	〃 (16年度は特に を重点項目とする)

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

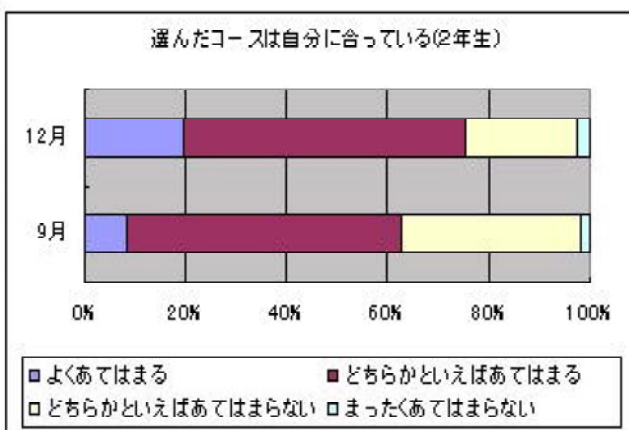
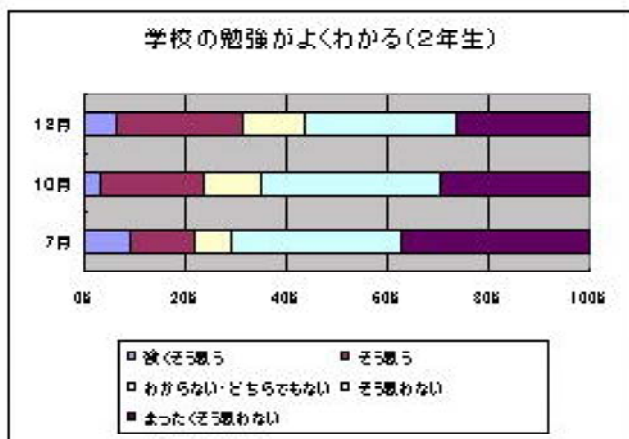
1 研究の成果

(1) 授業のねらいに迫るための教材提示の工夫について

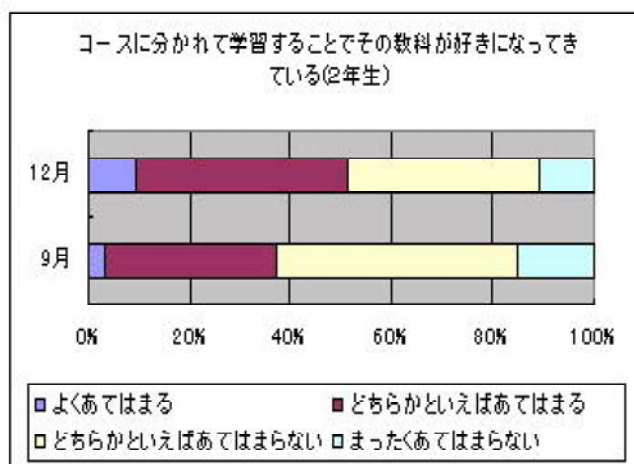
下の例のように、その授業の課題や流れをはっきりと生徒に伝えるよう全教科で工夫してきた。「学校の勉強がよくわかる」という項目について、3学年の中でもっとも割合が少なかった2年生の「強く思う・そう思う」の割合が増加傾向にあり、まだ少しではあるが、生徒の課題意識の向上や学習意欲の向上が図られている。

《主な取り組みの例》

- ・ 古典への抵抗感をなくすために、ビデオを視聴したり、漫画や挿絵を提示したりして、古典への関心・意欲をもつことができるようにする。(国語)
- ・ 生徒にとってなじみ深いキャラクターを活用し、少子高齢化の特徴を理解できるようにする。(社会)
- ・ コンパスや定規を使った作図や実測などの操作活動を多く取り入れ、生徒自らが課題を発見できるようにする。(数学)



- ・地震波の学習では，パソコンや大きな模型を利用して，スケールの大きな現象のイメージをつかみやすいようにする。(理科)
- ・地域の人材を指導者として招聘し，生徒の箏の技術の習得に役立てる。(音楽)
- ・「コンビニ弁当」には6つの基礎食品群がどれくらい含まれているか調べながら，その栄養的な特徴を考慮することができるようにする。(技術・家庭)
- ・ALTの説明や生徒との会話を多くして，リスニングの能力を高めるようにする。(英語)



(2) 個に応じた指導方法や指導形態の工夫について

2年生の生徒の「少人数学習に関する意識調査」から，おおむね少人数学習を好意的に受け止めていることが分かる。また，前期(9月)よりも後期(12月)の方が値が高くなっていて，10月にコースを変更した後の生徒の意識の変化が見て取れる。「自分に合っている」と感じている生徒も増えている。

「少人数に分けたらすべて解決」ということでは決してない。数学科では，単元の導入時には，2つのコースを合同で一斉的な指導を行うなど，指導過程や生徒の状況に応じて学習形態を臨機応変に変えるようにしている。

また，コース設定や生徒のコース分けについても十分な配慮が必要である。それについて，英語科の資料を次に示す。

1 単元名 「 Program3 Here Comes the Train ! 」

2 学習形態

コース分けは，「基礎コース」「応用コース」「発展コース」とし，1コースの人数は，18～21名程度の少人数となっている。一人一人に手をかけて指導したい「基礎コース」の人数がなるべく少なくなるようにした。生徒の能力をも考慮しながら，生徒の希望をもとに生徒と相談しながら決定した。

この単元では，鉄道案内を聞いたり，鉄道の乗換駅や路線を尋ねたり，説明したりするコミュニケーション能力を高めることを目標としている。コースごとに，学習内容や方法を変え，生徒の能力や理解に合わせて行った。

「基礎コース」・・・鉄道案内を聞き，乗換駅や路線を知ることができる。

地図をもとに，道案内をすることができる。(2年の復習)

「応用コース」・・・鉄道案内を聞いたり，乗換駅や路線を尋ねたり説明したりすることができる。

「発展コース」・・・複雑な乗り換えについても尋ねたり説明したりすることができる。

3 生徒の変容

コース別に学習内容や方法を変えているので，生徒の能力や理解に合わせた学習を行うことができた。この単元では，聞く・話すといったコミュニケーション能力を高めることをねらいとしているが，各コース内での能力差があまりないことから，生徒は間違いや失敗を気にせずに学習をスムーズに進められた。また，「基礎コース」では，乗る，降りる，乗り換えるといった基本的な言葉を繰り返し使うようにしたり，道案内で用いられる，右，左，曲がる，などの言葉も復習することができた。生徒の感想をみると，「気軽に授業に取り組める」「相談しながらできるのでよい」「先生にも質問しやすい」など，好意的なものが昨年度よりも多くなった。

(3) 一人一人の学習を促進する評価の工夫について

今年度から，学習指導計画の中で，「C」の生徒が「B」に到達できるような指導の手立てを示すようにした。それにより，教師の，生徒一人一人を大切にする意識が高まるとともに，個々への対応の仕方を明確にすることができた。それについて，英語科の指導計画例を示す。

Today's point : 「AはBより～だ」という時の表現の仕方をマスター・・・		
4 Communicative Activities		形容詞の比較級を用いた言語活動を行う。 できるだけ多くの生徒と練習をする。 形容詞の比較級を用いたゲームに積極的に参加することができる・・・
5 Communicative Activities	25	Aの生徒への手立て よりたくさんの人と練習するように促す。 Cの生徒への手立て JTLとALTから、積極的に話しかける。 形容詞の比較級を用いたゲームを行う。 生徒の英文を聞いて、正しい文かどうかを判断し、助言する。 形容詞の比較級を使い、絵を見て2つのものを比べた表現をする・・・
6 Self - Evaluation ・自己評価カードに記入する。	5	Aの生徒への手立て 各班のリーダーとなり、より多くの英文を・・・ Cの生徒への手立て 机間指導により、比較級の文をつくるポイント を多く集めたグループにシールを与え、意欲を喚起する・・・
7 Closing		本時の学習を振り返り、次時への意欲がもてるようにする。

2 今後の課題

(1) 授業のねらいに迫るための教材提示の工夫について

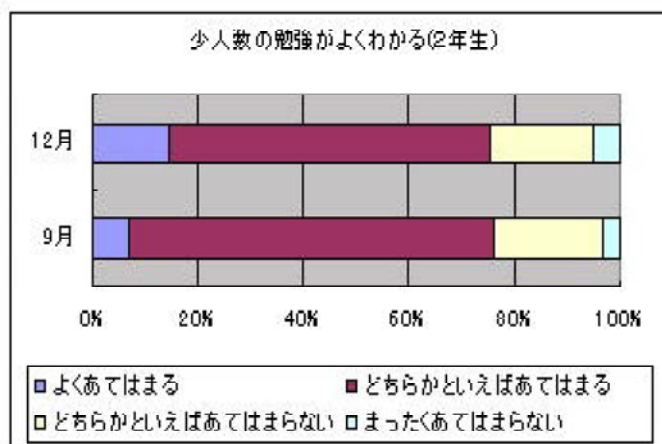
生徒が課題意識をしっかりともつことができるようにするために教材提示の果たす役割は大きく、「わかる授業」の工夫改善のために不可欠であると考えます。生徒の「勉強が好きだ」「勉強がよくわかる」という意識をさらに向上させるためにも、今後も継続して実践を積み重ねていくとともに、生徒の意識の変容を具体的にとらえることができるようにしていきたい。

(2) 個に応じた指導方法や指導形態の工夫について

コース別学習により「その教科が好きになった」生徒は、増加しているとはいえ「あてはまらない」生徒の方が依然として多い。さらに、「勉強がよくわかる」と答えた生徒も割合としては多いが、やや減少している。

つまり、学習に対する意欲は高まってきてはいるものの、学習の成果が十分でなかったり、成果が十分であっても生徒自身が実感できていなかったりしているのではないかと考えられる。

「わかる授業」づくりのためにはまだまだ課題が多いのが現状である。今後は、「わかる授業」づくりのために、教科や生徒の実態に即した少人数学習の形態を一層工夫するとともに、一人一人にさらにきめ細かい指導ができるように具体的な工夫をしていくことが必要である。また、数学科と英語科が研究の中心となるが、その成果を他の教科にも広げていくことができるようにすることも大切である。



(3) 一人一人の学習を促進する評価の工夫について

これまでの実践を継続して研究を進めていくとともに、評価が次の指導に生かされ「わかる授業」づくりにつながっていくように研修を深めていきたい。

そのためには、評価規準について常に見直しを図り、より生徒の実態に合ったものにしていく必要がある。さらに、単元または単位時間ごとの「B」に到達させるための指導の手立てを明確にしていくことが必要である。

学力把握のための学校としての取組

生徒の学習への取り組みに関するアンケート調査を定期的に（5月，7月，10月，12月，2月）実施し，研究の成果や生徒の変容を継続的にとらえる。また，その結果を指導方法の見直しに役立てる。特に，情意面の変容をとらえるのに有効であると考え。

CRTや学習状況調査，小学校との情報交換により，生徒の実態を分析し，特色や課題を把握する。特に，知識や理解面の変容をとらえるのに有効であると考え。

授業研究会などで研究の仮説について検証し，研究の成果と課題を明らかにするとともに，各教科等における成果を紹介し合い，共有化できるようにする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本校の研究を一層推進させるためにも，他のフロンティア校と連絡を取り合い，互いの実践の成果を共有し合えるようにしたい。また，学区内の小学校との連携を密にし，9年間で育てたい子どもの姿や身に付けさせたい力などを共通イメージし，それを目指した取り組みができればと考え，現在模索中である。

今年度実施した公開授業研究会については次のとおりである。

実施日	平成15年12月12日
研究教科及び単元	数 学 「三角形と四角形・円」(2年)
	英 語 「Program 9 Making a Video Letter」(2年)
日程	研究授業 13:40~14:30
	全体会 14:40~14:55
	教科別協議会 15:00~16:15
教科別協議会	1 教科経営説明
	2 授業者から
	3 協議 (1) 教材提示の工夫
	(2) 指導方法や指導形態の工夫
	(3) 評価の工夫
	4 指導助言

来年度の公開授業研究会については未定である。

また，年度末に研究紀要を作成し，近隣の小・中・高等学校などに配布し成果の普及を図る予定である。

~~~~~

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無